

点検アシスト For BT-1000 シリーズ ユーザーズマニュアル

はじめに

このマニュアルは、ハンディターミナル BT-1000/1010 の基本的な使用方法や、注意していただきたいこと、ハンディターミナル BT-1000/1010 で読み取った点検データをパソコンに転送する方法などを説明しています。

ハンディターミナル BT-1000/1010 をご使用になる前に、必ずお読みください。

！対象となる機種

このマニュアルの対象となる機種は BT-1000/BT-1010 です。

以降、このマニュアルでは「ハンディターミナル BT-1000/1010」を、「ハンディターミナル」と記載します。

ハンディターミナルを安全にお使いいただくために

ハンディターミナルを正しくお使いいただくための、注意事項をまとめます。

！一般的な注意事項

- 本製品は、図書館管理システム「LibMax」専用です。ほかの製品との併用はできません。
- 付属の AC アダプタ以外は使用しないでください。
- ハンディターミナルを、分解したり、修理・改造をしないでください。
- AC アダプタからこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは、直ちに電源プラグを抜いてください。
- 電源プラグを抜くときは、ケーブルを持たず、必ずプラグの部分を持って抜いてください。
- 付属のバッテリー以外は使用しないでください。また、付属のバッテリーを本製品以外に使用しないでください。
- ハンディターミナルの液晶画面を先の尖ったものでたたいたり、ひっかいたりしないでください。
- ハンディターミナルを使用して点検作業を行う場合は、必ずハンディターミナルのストラップを首にかけ、落下しないように気をつけてください。



必ずストラップを
かけます。

落下など不注意による破損や故障の場合は、修理費用を実費にてご負担いただきますので、ご了承ください。

正しくお使いください

ハンディターミナルの故障を避け、正しくお使いいただくため、次の注意事項をよくお読みになり、必ずお守りください。

！レーザー製品を安全にご使用いただくために

警告

- ハンディターミナルのレーザー照射部からは、レーザー光が発射されます。レーザー光を直接見ないでください。目に障害を起こすことがあります。
- 絶対に分解しないでください。
分解時にレーザー光の放射を停止する機能を備えていません。分解されますとレーザー光にさらされ、目に障害を起こすことがあります。
- レーザー照射部の清掃は、必ずレーザー光の放射を停止してから作業してください。レーザー光の放射を停止しないと、レーザー光にさらされ、目に障害を起こすことがあります。

！充電池使用上の注意

危険

- 充電池パックの使用、充電、保管時に異臭を発したり、発熱をしたり、変色、変形、その他、今までと異なることに気づいたときは、本体または充電器から取り出し、使用しないでください。そのまま使用すると充電池パックが発熱する、破裂、発火する原因となるおそれがあります。
- 充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。充電池パックが発熱、破裂、発火する原因となるおそれがあります。
- 充電池パックが液漏れしたり、異臭がするときは、直ちに火気から遠ざけてください。液漏れした電解液に引火し、破裂、発火する原因となります。
- 火中への投入は、充電池パックの破裂により重大な事故を引き起こすおそれがありますので、絶対に行わないでください。
- 水中への投入は、充電池パックの化学変化による事故発生の危険がありますので、十分注意してください。

警告

- 端子のショートは充電池パックの損傷や発熱の原因になるだけでなく、瞬間的に大電流が流れて火傷や焼損をもたらすこともありますので、十分注意してください。
- 万一、液漏れした液が目に入った時は、目をこすらずに直ちにきれいな水で洗い流したあと、すぐに医師の治療を受けてください。放置すると目に障害を負う危険性があります。
- 万一、充電池パックから漏れた液が皮膚に付着した場合は、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚かぶれの原因になります。

注意

- ハンディターミナルを長期間使用しない場合は、内部データのバックアップを取ったあと、充電電池パックを抜いて保存してください。ただし、6か月に1度は充電してください。充電電池パックの寿命・性能の低下につながります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。機器の故障の原因となります。
- 高温になった車の中や炎天下など、高い温度になる場所に放置しないでください。また、同様の環境下で使用しないでください。充電電池パックの発熱、発火、寿命、性能の低下につながります。
- 充電電池パックは充電時: 0～+40℃、使用時: -20～+50℃の環境で使用してください。これ以外の温度で使用すると、充電電池パックの発熱、破損、寿命、性能の低下の原因となることがあります。
- 指定の充電器以外での充電は絶対にしないでください。機器の故障の原因となります。
- 充電電池パックを、BT-1000 以外の機器には絶対に使用しないでください。使用条件が異なる機器で使用了場合、充電電池パックの劣化を早めたり機器を損傷したりすることがあります。
- 充電電池パックの分解、改造、直接ハンダ付けは絶対にしないでください。

！ BT-1000 の取り扱いについて

 危険

- BT-1000 通信ユニット、BT-UC10U に通電される際は、充電端子部に異物等が無いが必ず確認してください。異物等が存在するとショートにより発熱、発火のおそれがあり、火災発生の原因となります。
- BT-1000 通信ユニット、BT-UC10U の AC アダプタの AC 電源接続端子部のほこりの付着に注意し、定期的に清掃してください。トラッキング現象により火災発生の危険があります。また、長期間使用しない場合は、AC 電源から抜いてください。

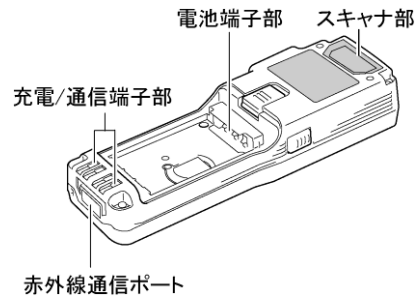
 注意

- BT-1000 左側面のブザー穴に針など先の尖ったものを挿入しないでください。防水シートが破損するおそれがあります。
- BT-1000 通信ユニット、BT-UC10U は付属の AC アダプタをご使用ください。これ以外の AC アダプタを使用した場合は破損のおそれがあります。
- BT-1000 通信ユニットとパソコン等との結線は、ノイズ発生源から離して設置してください。通信エラーの原因となる可能性があります。
- 「ハンディターミナル仕様」〈P.63〉に記載されている使用温度範囲でご使用ください。窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たる場所に放置しないでください。故障の原因となります。
- 「ハンディターミナル仕様」〈P.63〉に記載されている使用湿度範囲でご使用ください。急激な湿度変化が生じる場合、結露するようなところでは使用しないでください。故障の原因となります。
- 本機は精密機械ですので、落下させたり、強い衝撃を加えると、破損するおそれがあります。持ち運びの際、ご使用の際は十分ご注意ください。
- BT-1000 には、充電電池パック BT-B10 を使用してください。指定以外の電池を使用すると、本来の性能を発揮できません。また、発火や液漏れによる故障の原因となるおそれがあります。
- バーコードの読み取り性能は、周囲の明るさや、バーコードの状態によって変化します。また、レーザ光がバーコードに対して直角に当たっている場合は、正反射のため安定して読み取れないことがあります。この場合は、角度や距離を変えることで読み取りやすくなります。

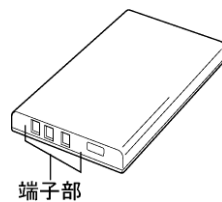
！保守について

BT-1000 の下記部分は定期的に清掃してください。清掃はアルコールを浸した柔らかい布で軽く拭き取ってください。

BT-1000



BT-B10

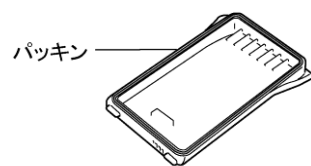


BT-UC10U



！パッキンの点検

BT-1000 の電池取付部には、水に対して耐性(JIS 防沫形)を保たせるため、パッキンが入っています。電池パック取り付け時はパッキンを点検してください。



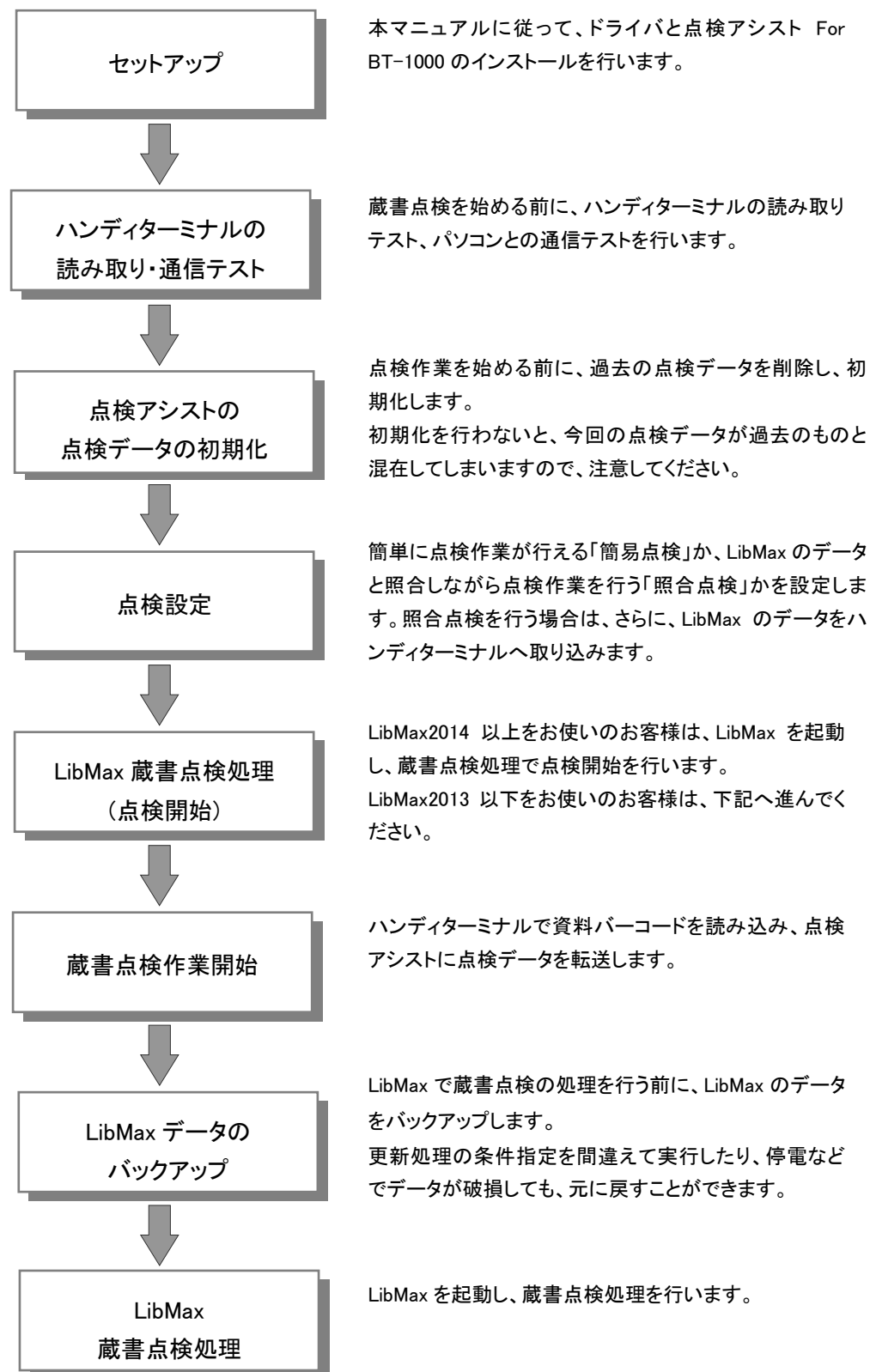
●点検項目

- ・ パッキンがはめ込まれている溝から外れていないか確認してください。外れている場合は、取り付けてください。
- ・ パッキンの取り付け部に砂、髪の毛などのごみが付着している場合は、必ず、乾いた清潔な布で拭き取ってください。

蔵書点検の概要

ハンディターミナルを使用して蔵書点検を行う場合の、作業の流れをまとめます。

※お使いの LibMax バージョンによって画面表示は異なります。



目次

はじめに	2
ハンディターミナルを安全にお使いいただくために	2
正しくお使いください	3
蔵書点検の概要	7
1 準備すること	9
1 点検機器の確認	9
2 各部の名称と役割	9
3 ハンディターミナルの充電	10
4 置き台とパソコンの接続についての注意事項	12
2 セットアップ	13
1 点検アシストのインストール	14
3 資料バーコードの読み取り・通信テスト	22
1 テスト前に確認すること	22
2 資料バーコードを読み取る	22
3 パソコンとの通信テストを行う	24
4 読み取ったデータをハンディターミナルから削除する	25
5 ハンディターミナルの設定	27
4 蔵書点検の概要	29
1 蔵書点検のモードについて	29
2 ハンディターミナルを使用した蔵書点検作業の流れ	30
5 簡易点検モードでのバーコード読み取り作業	31
1 点検アシストの初期化	31
2 簡易点検モードの設定	32
3 ハンディターミナルでのバーコード読み取り作業	35
6 照合点検でのバーコード読み取り作業	36
1 点検アシストの初期化	36
2 蔵書データの転送	37
3 照合点検モードの設定	39
4 ハンディターミナルでのバーコード読み取り作業	50
7 バーコード読み取り以降の作業	51
1 点検データの取り込み	51
2 点検作業の再開	61
3 LibMax データのバックアップ	61
4 LibMax で蔵書点検を実行する	61
8 付録	62
1 ハンディターミナル仕様	62
2 サポートのご案内	64

1 準備すること

1 点検機器の確認

お送りしたパッケージには、次の機器が入っています。すべて揃っていることを確認してください。



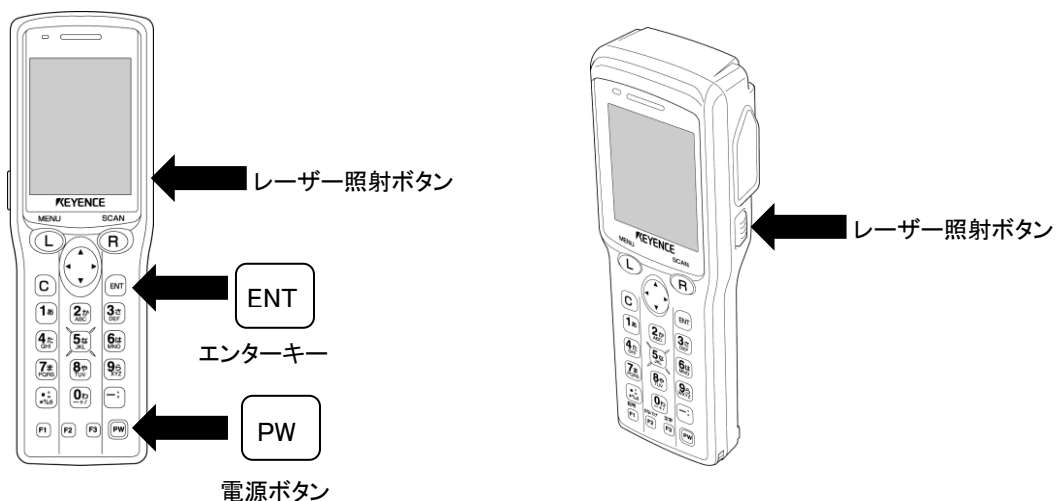
※「点検アシスト For BT-1000」のプログラムが保存されている「CD-ROM」が同梱されています。

2 各部の名称と役割

ハンディターミナルと置き台の、各部の名称を確認してください。

■ハンディターミナル

ハンディターミナルは、蔵書点検時に、資料バーコードの読み取りに使用します。読み取り後に、点検データをパソコンに転送します。

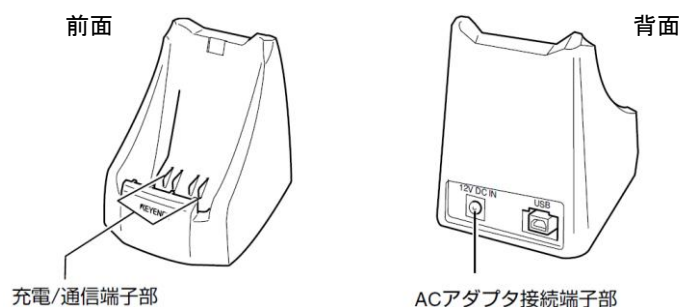


■置き台

置き台は LibMax がインストールされているパソコンに接続して、ハンディターミナルから点検データをパソコンに転送するときに使用します。

また、ハンディターミナルの充電にも使用します。

※ 置き台が複数ある場合、点検データ転送用にパソコンに接続する置き台は1台のみです。ほかの置き台は、ハンディターミナルの充電専用に使います。

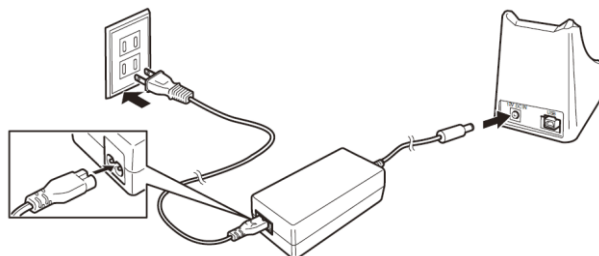


3 ハンディターミナルの充電

ここでは、ハンディターミナルの充電方法を解説します。

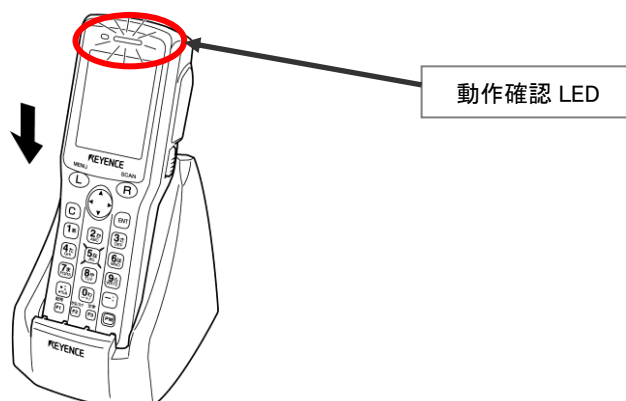
▼ 操作

1. 置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿入します。



2. 置き台にハンディターミナルをセットします。

動作確認 LED が赤色に点灯し、充電中であることが表示されます。



操作

3. 充電が完了すると、動作確認 LED が緑色に切り替わります。

以上で、充電作業が完了です。

なお、バッテリーが切れても、数時間は点検データが消えることはありません。

速やかに、充電を行ってください。

！ご注意 ハンディターミナルの充電は、必ずハンディターミナルを置き台にセットして、ハンディターミナルごと行ってください。

■電池残量の表示について

ハンディターミナルの液晶画面左下にある、メーターがバッテリーの残量を示しています。

残量が約30～10%になったら、充電を行うようにしてください。



約 60%以上



約 60%～30%



約 30%～10%



約 10%



充電中

！ご注意 残量が約 30～10%となった場合、できるだけ早く充電してください。この状態で、バーコードを読んだり、パソコンにデータを転送するとローバッテリー状態となり、動作が中断されることがあります。

※パソコンに転送済みのデータには影響がありません。

4 置き台とパソコンの接続についての注意事項

！ご注意 置き台が複数ある場合でも、蔵書点検用にパソコンと接続する置き台は1台のみです。ほかの置き台はハンディターミナルの充電専用としてお使いください。

！ご注意 セットアップの前に、置き台とパソコンは接続しないでください。

2 セットアップ

ハンディターミナルを使用して蔵書点検を行うためには、まずセットアップを行う必要があります。セットアップには、付属の CD-ROM を使用します。

セットアップの方法は、WindowsOS によって異なります。お使いの WindowsOS を確認してください。「点検アシスト For BT-1000」は、下記の OS に対応しています。

対応OS	Windows 8.1/10 日本語版
------	---------------------

セットアップ前に、下記のことを確認してください。

！ご注意 セットアップの前に、お使いのパソコンに LibMax がインストールされているか確認してください。LibMax がインストールされていないパソコンには、「点検アシスト For BT-1000」はインストールできません。

！ご注意 ほかのプログラムを起動しているときは、すべて終了してからセットアップを実行してください。

！ご注意 セットアップの前に、置き台とパソコンは接続しないでください。

1 点検アシストのインストール

■ セットアッププログラムを起動します

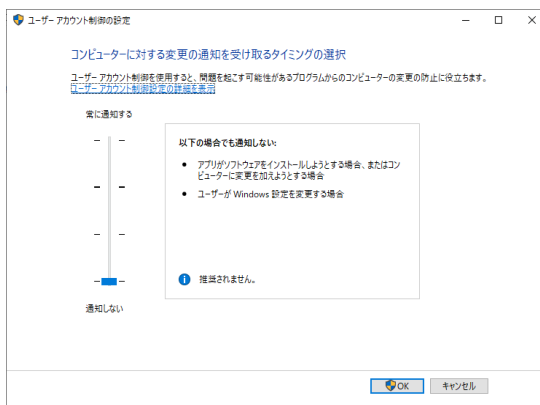
操作

1. Administrator 権限で Windows にログオンします。ウイルス対策ソフトは、いったん終了してください。
2. インストール作業のために、ユーザーアカウント制御の設定を、一時的に無効にします。スタートメニューの右横にある  をクリックして検索欄を表示させます。「コントロールパネル」と入力すると、検索結果に[コントロールパネル]が表示されるので、クリックします。次に、[ユーザーアカウント]をクリックします。

Windows8.1 をお使いの場合は[スタート]メニュー→[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]の順にクリックします。



3. [ユーザーアカウント制御設定の変更]をクリックします。
[ユーザーアカウント制御の設定]ダイアログが表示されます。
4. ユーザーアカウント制御は、4つのレベルから選択できます。つまみをドラッグして、一番下の[通知しない]まで下げます。



操作

5. [OK]ボタンをクリックします。

「設定変更を許可しますか?」というダイアログが表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。ダイアログが閉じます。コントロールパネルも閉じてください。

6. パソコンに、付属の CD-ROM をセットします。

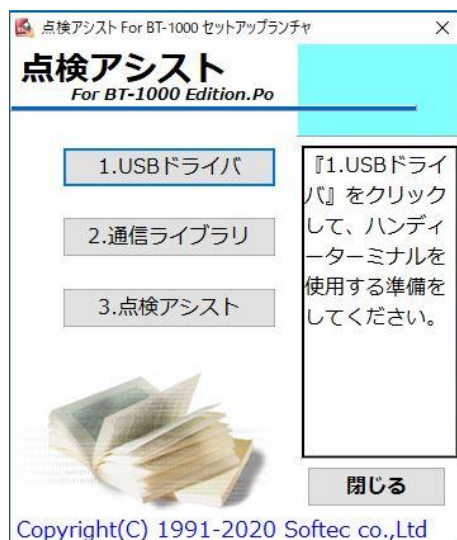
自動的にインストーラが起動し、[蔵書点検環境セットアップランチャメイン画面]が表示されます。[BT-1000]をクリックします。



現在お使いの LibMax のバージョンや環境によって表記は異なります。

7. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]が表示されます。
セットアップ

[点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]が表示されます。セットアップは、「1.USBドライバ」から「3.点検アシスト」まで、上から順番に行います。



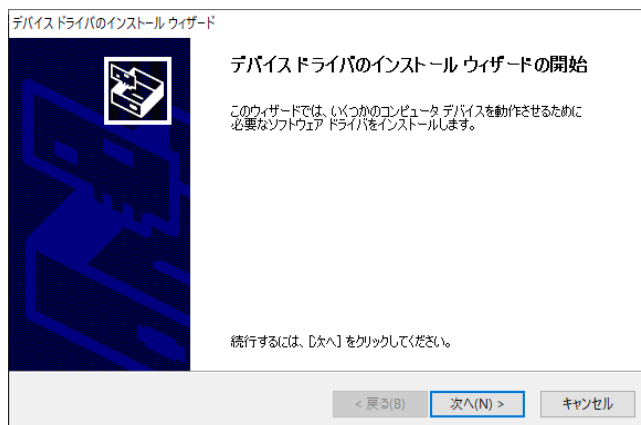
※この画面が自動的に表示されない場合は、[コンピューター]から CD ドライブを開き、「InstallTenkenAssist (.exe)」をダブルクリックします。

■USB ドライバのインストール

操作

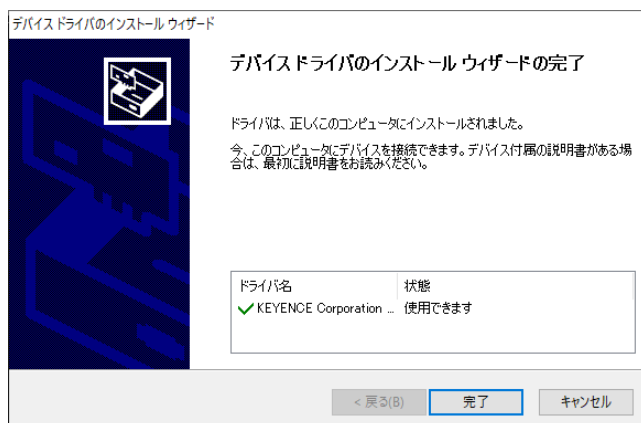
1. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]で、[1.USB ドライバ]ボタンをクリックします。

[デバイスドライバのインストール ウィザードの開始]画面が表示されます。



2. [次へ]ボタンをクリックします。

デバイスドライバのインストールが始まります。インストールが終了したら、次の画面に切り替わります。



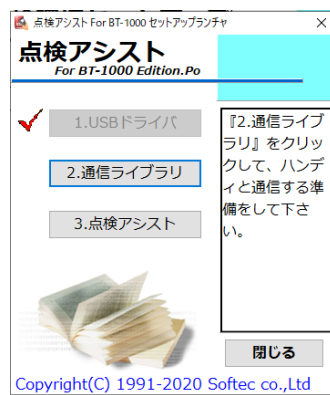
3. [完了]ボタンをクリックします。

デバイスドライバのインストールが終了し、[デバイスドライバのインストール ウィザード]画面が閉じます。

操作

4. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]に戻ります。

USB ドライバの設定が終了したので、画面の内容が次のように切り替わります。

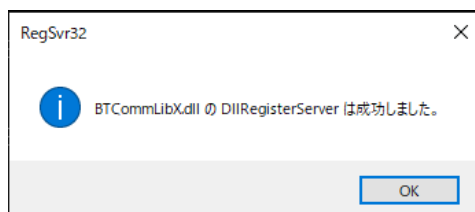


■通信ライブラリの設定

操作

1. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]で、[2.通信ライブラリ]ボタンをクリックします。

自動的に、通信ライブラリの設定が始まります。設定が終了すると、次のダイアログが表示されます。

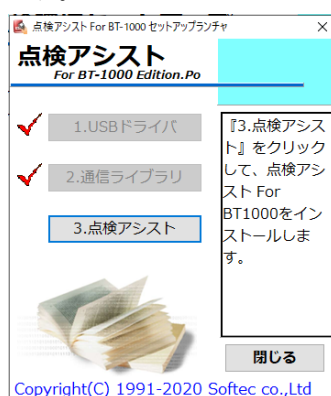


※以下の画面が表示された場合[はい(Y)]をクリックします。



2. [OK]ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じます。
3. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]に戻ります。

通信ライブラリの設定が終了したので、画面の内容が次のように切り替わります。

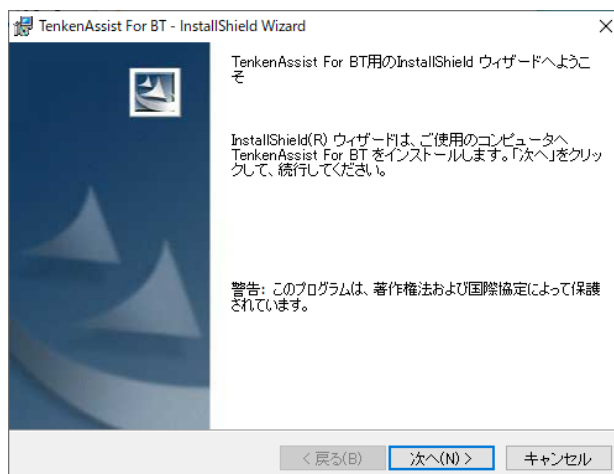


■点検アシストのインストール

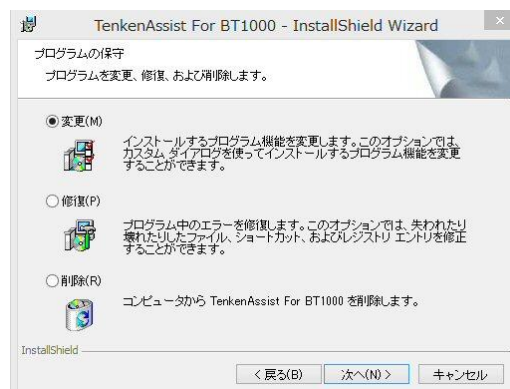
操作

1. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]で、[3.点検アシスト]ボタンをクリックします。

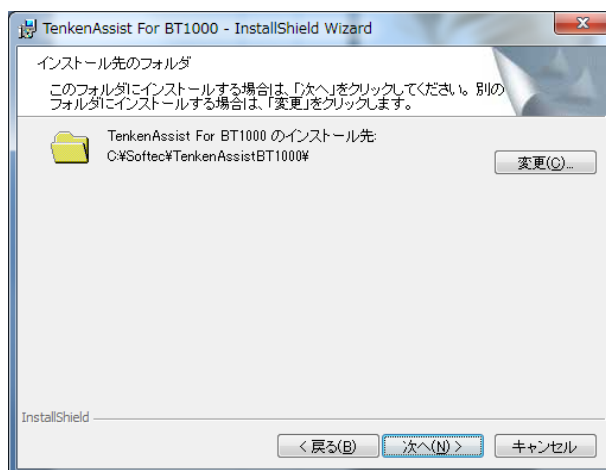
[TenkenAssist For BT1000]ウィザードが表示されます。



※以下の画面が表示された場合は、[次へ(N)]ボタンをクリックし、以降のウィンドウも[次へ(N)]ボタン、[インストール(I)]ボタンをクリックし手順 4 に進んでください。



2. 表示内容を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



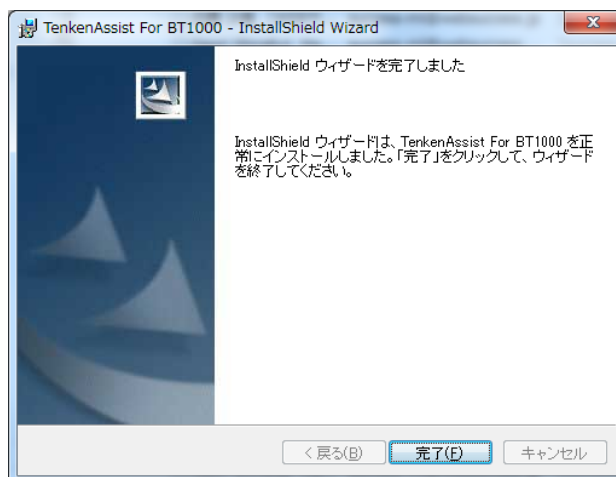
操作

3. インストール先を確認します。特に理由がない場合は、このまま[次へ]ボタンをクリックしてください。

インストール先を変更する場合は、[変更]ボタンをクリックして、インストール先を選択してから、[次へ]ボタンをクリックしてください。

自動的にファイルのインストールが始まります。

4. インストールが終了すると、次の画面に切り替わります。

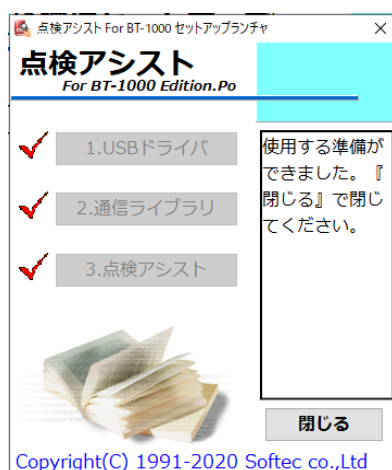


5. [完了]ボタンをクリックします。

[TenkenAssist For BT1000]ウィザードが閉じます。

6. [点検アシスト For BT-1000 セットアップランチャ]に戻ります。

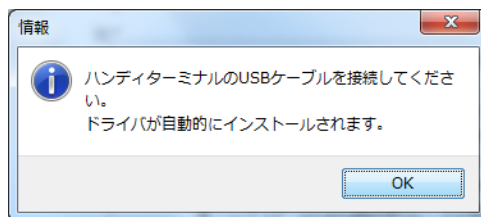
インストールが完了したので、画面の内容が次のように切り替わります。



■ドライバのインストール

操作

1. パソコンと置き台を接続したら、[OK] ボタンをクリックします。



ドライバが自動的にインストールされます。終了のメッセージは表示されません。

以上で、セットアップは終了です。パソコンから CD-ROM を取り出します。
ユーザーアカウント制御の設定を、元に戻してください。

3 資料バーコードの読み取り・通信テスト

蔵書点検作業を行う前に、資料バーコードの読み取りテストを行います。また、ハンディターミナルが、パソコンと正しく通信できるかどうかをテストします。

！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。



1 テスト前に確認すること

資料バーコードの読み取り・通信テストを行う前に、次のことを確認してください。

- 点検アシストがパソコンにインストールされていますか？
- ハンディターミナル BT-1000 のドライバがパソコンにインストールされていますか？
- ハンディターミナルの置き台とパソコンが正しく接続されていますか？
- ハンディターミナルは充電されており、電池残量は充分ですか？

2 資料バーコードを読み取る

操作

1. ハンディターミナルの[PW]ボタンを押し、電源を ON にします。
ハンディターミナルの液晶画面に、[メインメニュー]が表示されます。

メインメニュー	
1: 蔵書点検	
2: 貸出返却	
3: 設定・削除	

2. ハンディターミナルの[ENT]ボタンを押して、[蔵書点検]画面を表示します。

蔵書点検	ID:5
データ数	0
登録番号	

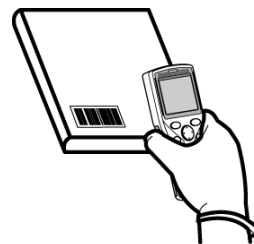
操作

3. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、資料バーコードにあて、レーザ照射ボタンを押します。ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあけ、赤いレーザがバーコード部分にあたるようにします。

バーコードが正常に読み込まれると、緑色のランプが点灯し、「ブツ」と音がします。

また、データ数が1件増えます。

赤色のランプが点灯し、「ビー」と音がして、ハンディターミナルが振動したときは、下記の「MEMO」を参照してください。



※[R]ボタンを押すと、「ビー」と音がした理由や書名を確認できます。

MEMO

●「配架場所が違います」「所蔵状態が違います」など表示される場合

この状態は、「点検設定」(P.40)〈P.44〉で[照合点検モード]に設定してある場合に、もとの蔵書データと異なる状態の資料バーコードを読み込んだときに発生します。バーコードの読み取り自体は正しく行われています。[ENT]ボタンを押してメッセージを消してください。

●「同一コードを読みました」と表示される場合

この状態は、同じバーコードを続けて読み取ったときに発生します。バーコードの読み取り自体は、正しく行われています。

●「登録されていません」と表示される場合

この状態は、蔵書データがない資料バーコードを読み取ったときに発生します。バーコードの読み取り自体は正しく行われています。

●「読み取れませんでした」と表示される場合

この状態は、資料バーコード以外のバーコードを読み取ろうとしたり、読み取りに失敗したときに発生します。[ENT]ボタンを押してメッセージを消してから、正しい資料バーコードを用意して、もう一度読み取ってみてください。

●バーコードの印刷状態などが原因で、読み取りができない場合

ハンディターミナルの数字ボタンから、直接、登録番号を入力することができます。

- (1) バーコードラベルの登録番号を、数字ボタンで入力します。

液晶画面の[登録番号]に、入力した番号が表示されます。

入力直す場合は、[C]ボタンを押すと、直前の数字を削除できます。

- (2) 正しい登録番号を入力したら、[ENT]ボタンを押します。

「ブツ」と音がして、読み込まれます。

●初期化のメッセージが表示される場合

ハンディターミナル内蔵のバックアップ用副電池の容量がなくなったときは、RAM(ドライブ 2)を初期化するメッセージが表示されます。[ENT]キーを押して初期化してください。このとき、日付と時刻はクリアされている場合がありますので、〈P.28〉を参照して日付時刻設定をしてください。

RAMドライブが不正です。
初期化します。

OK

3 パソコンとの通信テストを行う

操作

1. [点検アシスト]を起動します。

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]→[点検アシスト ForBT]または[点検アシストクラウド]を選択します。
点検アシストの画面が表示されます。

◆LibMax クラウドをお使いのお客様

ログイン画面が表示されるので、ユーザー名とパスワードを入力して[ログイン]をクリックします。

※[ユーザー名]、[パスワード]は LibMax 操作マニュアルに同封されている「ソフトウェア使用許諾契約証書」に記載されています。

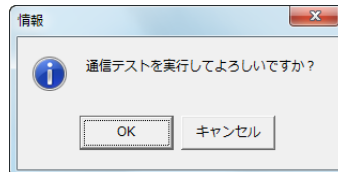
MEMO LibMax2014 以上をお使いのお客様で、LibMax の蔵書点検処理の[点検開始]を行っていない場合は下記のメッセージが表示されます。OK をクリックして進んでください。

2. [通信テスト]ボタンをクリックします。

3. 点検アシストで、次のメッセージが表示されます。

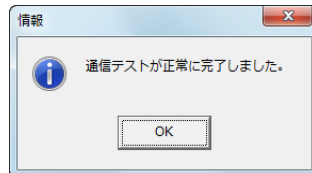
操作

4. パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。
置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。
ハンディターミナルを置き台にセットします。
ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. 次のメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

7. 「通信テストが正常に完了しました。」と表示されたら、テスト完了です。



[OK] ボタンをクリックしてください。

MEMO

●「ハンディターミナルの状態を確認してください」と表示されるとき
下記のことを確認してください。

- ① ハンディターミナルのドライバをインストールしましたか？
- ② パソコンと置き台が正しく接続されていますか？
- ③ 置き台と AC アダプタは正しく接続されていますか？また、電源プラグはコンセントに差し込まれていますか？
- ④ ハンディターミナルの読み取りレーザが照射されていませんか？
何かバーコードを読み取るか、しばらく待って、読み取りレーザが消えてから、もう一度通信テストを行ってください。

4 読み取ったデータをハンディターミナルから削除する

テストが終了したら、ハンディターミナルに残っているデータを削除し、何も読み取っていない状態に戻します。なお、削除したデータは復元できません。必要なデータを誤って削除しないように注意してください。

※手順 5 以降、各操作で[C] ボタンを押すと、操作をキャンセルできます。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源を ON にします。
2. 液晶画面に[メインメニュー]画面が表示されます。
[メインメニュー]以外の画面が表示された場合は[L]ボタンを押してください。[メインメニュー]画面が表示されます。

メインメニュー
1: 蔵書点検
2: 貸出返却
3: 設定・削除

3. [3]ボタンを押します。
液晶画面に[設定・削除メニュー]画面が表示されます。

設定・削除メニュー
1: 蔵書点検設定
2: ハンディ設定
3: 削除処理

4. [3]ボタンを押します。
液晶画面に[削除]画面が表示されます。

削除
1: 蔵書点検データ
2: 貸出/返却データ
3: 利用者マスタ

5. [1]ボタンを押します。
「削除したデータは元に戻せません。データを削除しますか?」と表示されます。
6. [1]ボタンを押します。
「削除してよろしいですか?」と表示されます。
7. [1]ボタンを押します。
点検データが削除され、「削除しました」と表示されます。
8. [ENT]ボタンを押します。

[メインメニュー]画面に戻ります。[1]ボタンを押して[蔵書点検]画面を表示させ、[データ数]が「0」と表示されていることを確認してください。

蔵書点検	ID:5
データ数	0
登録番号	

5 ハンディターミナルの設定

バーコードを読み取ったりキーを押したときの音や、ブザーの音量を設定できます。また、日付と時刻を設定します。これらの設定は、点検アシストで設定する方法と、ハンディターミナルで設定する方法があります。ここでは、ハンディターミナルで設定する方法を解説します。

点検アシストで設定する方法は、「点検アシストで設定する場合」(P.33)を参照してください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源をONにします。
2. 液晶画面に[メインメニュー]画面が表示されます。
[メインメニュー]以外の画面が表示された場合は[L]ボタンを押してください。[メインメニュー]画面が表示されます。

メインメニュー
1: 蔵書点検
2: 貸出返却
3: 設定・削除

3. [3]ボタンを押します。
液晶画面に[設定・削除メニュー]画面が表示されます。

設定・削除メニュー
1: 蔵書点検設定
2: ハンディ設定
3: 削除処理

4. [ハンディ設定]の数字ボタンを押します。
[ハンディ設定メニュー]画面が表示されます。

ハンディ設定メニュー
1: キー/ブザーボリューム
2: 日付時刻設定

操作

5. 各項目を設定します。

・キー/ブザーボリューム

- ① [ハンディ設定メニュー] 画面で[1]ボタンを押すと、[キー/ブザーボリューム]画面が表示されます。

キー / ブザーボリューム
0 : OFF
1 : 小
2 : 中
3 : 大
設定 : 1

ハンディターミナルのボタンを押したときの音量や、バーコード読み取りをしたときのブザーの音量を設定します。数字ボタンを押して、ボリュームを設定してください。[0:OFF]にすると音は鳴りません。

- ② 数字ボタンを押して選択すると、[ハンディ設定メニュー]画面に戻ります。

・日付時刻設定

- ① [ハンディ設定メニュー]画面で[2]ボタンを押すと、[日付時刻設定]画面が表示されます。

日付時刻設定
11 年 06 月 14 日
13 時 45 分 15 秒

数字ボタンを押して、年月日時刻の各項目を入力していきます。[ENT]ボタンを押すと次の項目へ移動します。

- ② [秒]まで入力すると[ハンディ設定メニュー]画面に戻ります。

6. [ハンディ設定メニュー]画面で[L]ボタンを押すと、[メインメニュー]画面に戻ります。

MEMO

複数のハンディターミナルを使用する場合は、ハンディターミナルごとに重複しない ID(端末 ID)を設定します。操作方法は、「端末 ID を変更する」(P.61)を参照してください。

※ 弊社レンタルサービスによるハンディターミナルのみを使用する場合は、端末 ID の変更は必要ありません。

4 蔵書点検の概要

1 蔵書点検のモードについて

ハンディターミナルを使用した蔵書点検のモードには、次の2種類があります。

- 簡易点検モード

資料バーコードの読み取りだけを行います。簡易点検モードに設定すると、すぐに点検作業を開始できます。資料の有無のみをスピーディーに点検したいときに便利です。

- 照合点検モード

資料バーコードを読み取り、LibMax の蔵書データと照合しながら点検を行います。LibMax の蔵書データと実際の状況が違う場合は、エラーとして点検データに記録されるので、便利です。

照合点検モードで点検を行うときは、照合したい項目を設定し、蔵書データをパソコンからハンディターミナルに転送する必要があります。

どちらのモードで点検するかを決めたら、マニュアルの該当するページを参照して、蔵書点検を行ってください。

- 簡易点検モードで点検する場合

「5 簡易点検モードでのバーコード読み取り作業」〈P.32〉

「7 バーコード読み取り以降の操作」〈P.51〉

- 照合点検モードで点検する場合

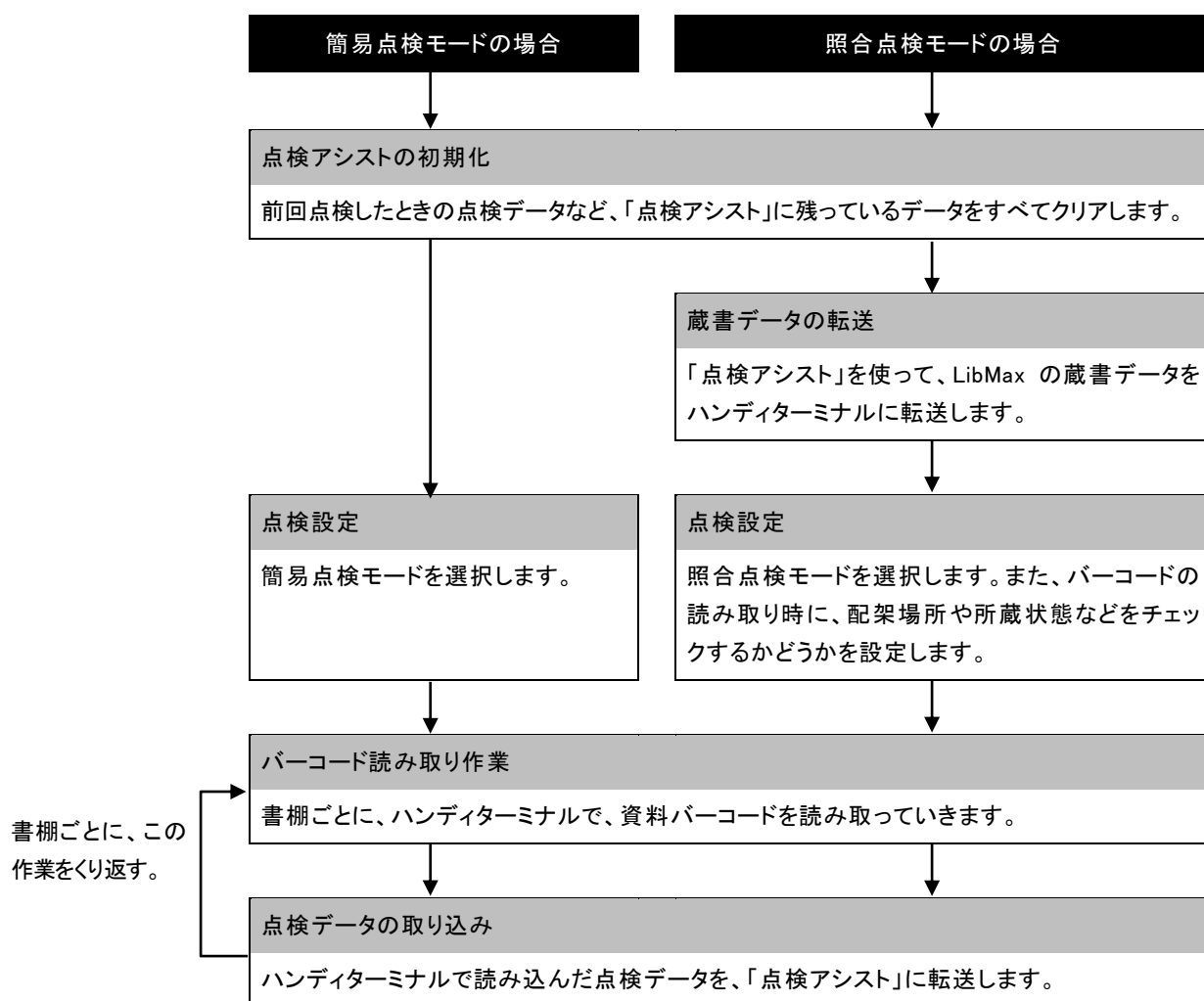
「6 照合点検モードでのバーコード読み取り作業」〈P.36〉

「7 バーコード読み取り以降の操作」〈P.51〉

2 ハンディターミナルを使用した蔵書点検作業の流れ

！ご注意 LibMax2014 以上をお使いのお客様は、LibMax で蔵書点検の点検開始を行ってください。

バーコードの読み取りと通信テストが正しく行われたことを確認したら、点検アシストを初期化して、点検モードを設定します。以上の作業を済ませたら蔵書点検を開始できます。蔵書点検の作業の流れは、次のようになります。



！ご注意 バーコード読み取り作業を開始してからは、点検アシストの初期化は行わないでください。

MEMO 一度にすべての蔵書データを取り込むことができますが、「バーコード読み取り作業」→「点検データの取り込み」のサイクルを決めて（たとえば一日ごと、半日ごと）、数回に分けて作業を繰り返すことをお勧めします。

5

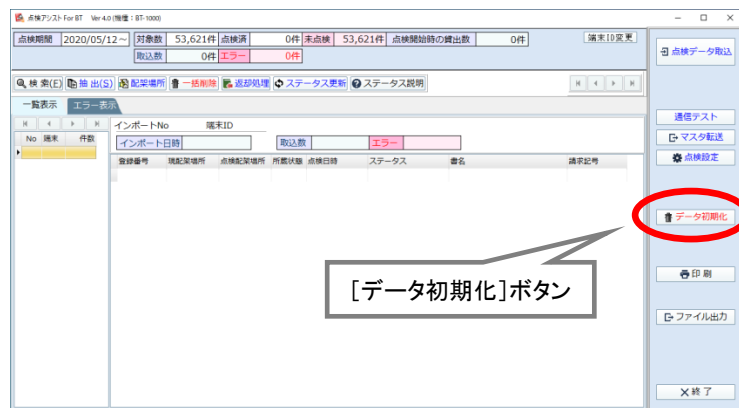
簡易点検モードでのバーコード読み取り作業

1 点検アシストの初期化

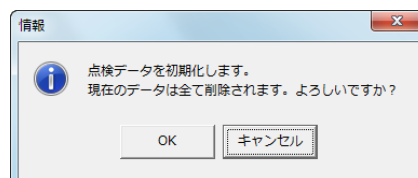
点検アシストに、前回点検時の点検データが残っていると、今回点検する点検データと混在してしまいます。このようなことがないように、点検作業前に、データを消去しておきます。なお、データを初期化すると、復元はできません。誤って実行しないように注意してください。

操作

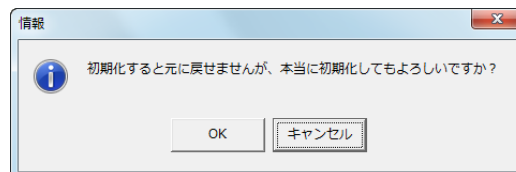
1. [点検アシスト]を起動します。
[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]→[点検アシスト ForBT]または[点検アシストクラウド]を選択します。
2. [データ初期化]ボタンをクリックします。



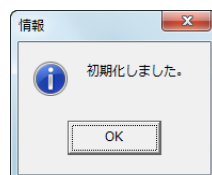
3. 削除確認のメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



4. 削除してもよいか確認し、[OK]ボタンをクリックします。



5. [OK]ボタンをクリックします。



6. 初期化が完了します。

2 簡易点検モードの設定

蔵書点検のモードを簡易点検モードに設定します。点検アシストで設定する方法と、ハンディターミナルで設定する方法があります。

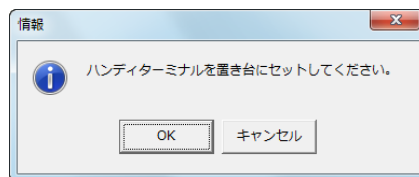
■点検アシストで設定する場合

操作

1. [点検アシスト]の[点検設定]ボタンをクリックします。



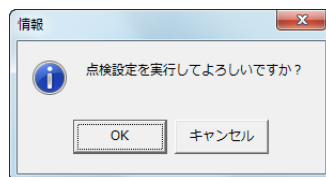
2. 次のメッセージが表示されます。



3. パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。ハンディターミナルを置き台にセットします。ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。

[OK] ボタンをクリックします。

4. 点検設定の実行を確認するメッセージが表示されます。



5. [OK] ボタンをクリックします。
点検アシストとハンディターミナルの通信が始まります。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

操作

6. [点検設定]ダイアログが表示されます。

7. [基本設定選択]で[簡易点検]を選択します。

8. 必要に応じて、[キー入力音/ブザー音量]を設定します。

・キー入力音/ブザー音量

ハンディターミナルのボタンを押したときの音量や、バーコード読み取りを

したときのブザーの音量を設定します。

[OFF]にすると音は鳴りません。

[蔵書点検]をすばやく始めるには「P.36」を参照してください。

9. [設定保存]ボタンをクリックします。

次のメッセージが表示されます。

10. [はい]ボタンをクリックします。

点検設定ファイルがハンディターミナルに転送されます。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

11. 「設定ファイルを転送しました。」と表示されたら、設定は完了です。

[OK]ボタンをクリックしてください。

12. [点検設定]ダイアログの[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。

13. (この先は LibMax クラウドをお使いのお客様のみ設定してください)

[点検アシスト]の[取込設定]ボタンをクリックします。

操作

14. 条件指定用のダイアログに切り替わります。各項目を設定します。

・桁設定

LibMax の設定に合わせて[始桁]と[桁数]を入力して[保存]ボタンをクリックします。

・取込分割件数

初回設定は 3000 件で取込してください。

インターネットの回線速度によりデータ転送が失敗する場合は 2500 件以下で取込してください。

※LibMax の設定は[設定]メニュー[環境設定/ユーザー情報]の[番号体系]から確認できます。

■ハンディターミナルで設定する場合

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW] ボタンを押して電源を ON にします。
2. 液晶画面に[メインメニュー]画面が表示されます。
[メインメニュー]以外の画面が表示された場合は[L]ボタンを押してください。[メインメニュー]画面が表示されます。

3. [3] ボタンを押します。
液晶画面に[設定・削除メニュー]画面が表示されます。

4. [1] ボタンを押します。
[点検設定メニュー]画面が表示されます。

5. [1] ボタンを押します。
[蔵書点検モード設定]画面が表示されます。

6. [0] ボタンを押します。
[メインメニュー]画面に戻ります。

MEMO

●ハンディターミナルの時刻は通信したパソコンに合わせられます

[点検設定]でパソコンと通信を行うと、ハンディターミナルの時刻は通信したパソコンと同じになります。

3 ハンディターミナルでのバーコード読み取り作業

！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW] ボタンを押して電源を ON にします。
2. 液晶画面に[メインメニュー] 画面が表示されます。
[メインメニュー] 以外の画面が表示された場合は[L] ボタンを押してください。[メインメニュー] 画面が表示されます。
3. [ENT] ボタンを押して、[蔵書点検] 画面を表示します。
※[メインメニュー] 以外の画面が表示されているときは、[F1] ボタンを押すと、[蔵書点検] 画面が表示されます。
4. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、資料バーコードにあて、レーザー照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあけ、赤いレーザーがバーコード部分にあたるようにします。
5. 蔵書点検を行う資料のバーコードを、すべて読み取ります。

バーコードの読み取りが完了したら、以降の操作は「7 バーコード読み取り以降の作業」〈P.51〉に進んでください。

MEMO

●[R]ボタンを押すと書名などが表示されます

ハンディターミナルの[R]ボタンを押すと、直前に資料バーコードを読み取った資料の書名が表示されます。また、読み取りエラーが起きたときは、エラーの理由が表示されます。

●途中で読み取り作業を中断するとき

途中で読み取り作業を中断するときは、そのままハンディターミナルの電源を OFF にします。読み取ったデータはハンディターミナルに保存されています。読み取り作業を再開する場合は、再び電源を ON にして、読み取り作業を開始します。ハンディターミナルは、登録番号が 10 桁の場合、1 台で 100 万冊以上のデータを保存することができます。

●読み取ったデータを削除するとき

重複して読み取り作業を行ったなど、なんらかの事情で読み取ったデータを削除したいときは、「読み取ったデータをハンディターミナルから削除する」〈P.26〉の手順で削除してください。なお、ハンディターミナルに保存されているすべてのデータが削除されますので、注意して実行してください。

6

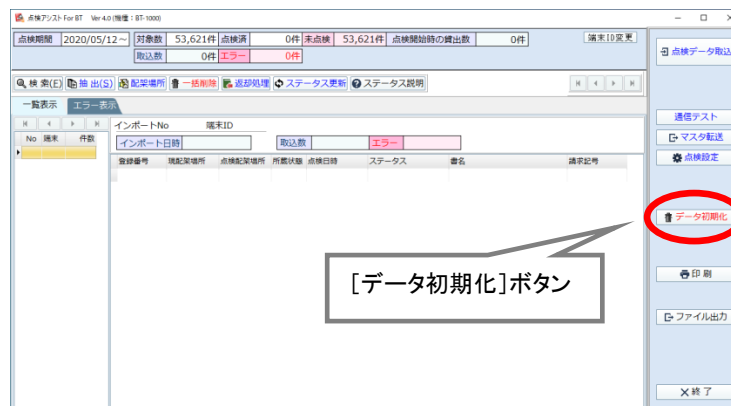
照合点検でのバーコード読み取り作業

1 点検アシストの初期化

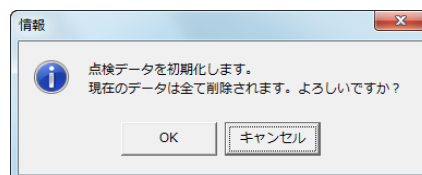
点検アシストに、前回点検時の点検データが残っていると、今回点検する点検データと混在してしまいます。このようなことがないように、点検作業前に、データを消去しておきます。なお、データを初期化すると、復元はできません。誤って実行しないように注意してください。

操作

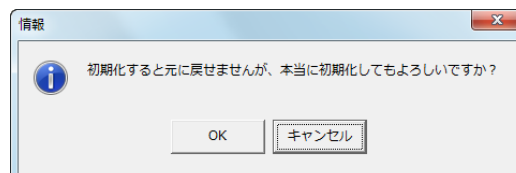
1. [点検アシスト]を起動します。
[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]→[点検アシスト ForBT]または[点検アシストクラウド]を選択します。
2. [データ初期化]ボタンをクリックします。



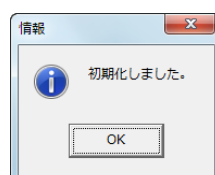
3. 削除確認のメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



4. 削除してもよいか確認し、[OK]ボタンをクリックします。



5. [OK]ボタンをクリックします。



6. 初期化が完了します。

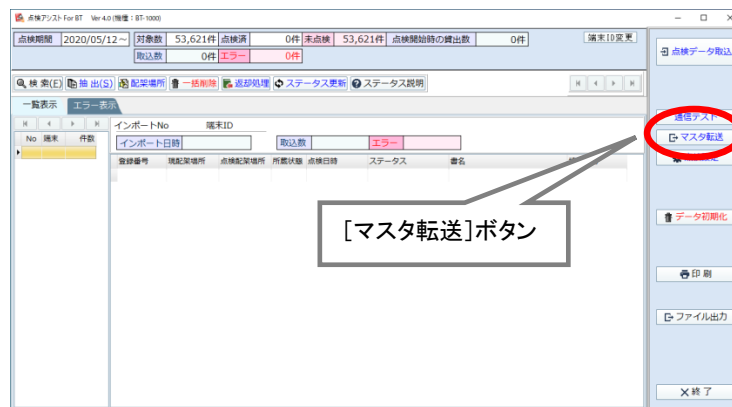
2 蔵書データの転送

照合点検モードでは、バーコードの読み取り時に、配架場所や所蔵状態などが、LibMaxの蔵書データと一致しているかどうかチェックできます。

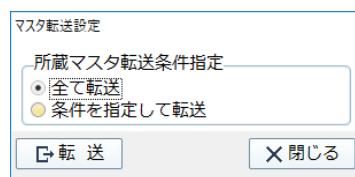
チェックするためには、LibMaxの蔵書データをあらかじめ、ハンディターミナルに転送しておく必要があります。

操作

1. [点検アシスト]を起動します。
2. [マスタ転送]ボタンをクリックします。



3. [マスタ転送設定]ダイアログが表示されます。



4. 条件を指定せず、すべての蔵書データを転送する場合は[転送]ボタンをクリックします。手順 7<P.40>へ進んでください。
所蔵館などの条件を指定して、特定の蔵書データだけを転送する場合は、[条件を指定して転送]をクリックします。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

5. 条件指定用のダイアログに切り替わります。各項目を設定します。

操作

マスタ転送設定

所蔵マスタ転送条件指定

☐ 全て転送
☒ 条件を指定して転送

所蔵館

☒	空白
☒	10 高校
☒	11 中学

配架場所

☒	空白
☒	1 閲覧室
☒	999 閉架

分類 ~

転送先の指定 内部メモリ ▼

・所蔵館

蔵書データを転送する所蔵館を選択します。

[全選択]

すべての所蔵館の蔵書データを転送するときは、[全選択]をクリックします。すべての所蔵館にチェックが付き、選択されます。

[全解除]

[全解除]をクリックすると、所蔵館のチェックがすべて外れます。

ただし、チェックがすべて外れている状態は全選択と同じです。いずれかの所蔵館にチェックを付けると、その所蔵館は選択され、チェックが外れている所蔵館は選択されていない状態になります。

・配架場所

蔵書データを転送する配架場所を選択します。

[全選択]

すべての配架場所の蔵書データを転送するときは、[全選択]をクリックします。すべての配架場所にチェックが付き、選択されます。

[全解除]

[全解除]をクリックすると、配架場所のチェックがすべて外れます。ただし、チェックがすべて外れている状態は全選択と同じです。いずれかの配架場所にチェックを付けると、その配架場所は選択され、チェックが外れている配架場所は選択されていない状態になります。

・分類

転送する蔵書データを、別置記号や分類記号の範囲で設定できます。

小さな入力欄には別置記号を、大きな入力欄には分類記号を入力してください。

分類記号の入力欄

分類 ~

別置記号の入力欄

操作

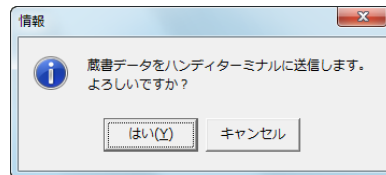
・転送先の指定

転送する蔵書データを、ハンディターミナルのどこに保存するかを設定します。[内部メモリ]と[SD カード]から選択できます。

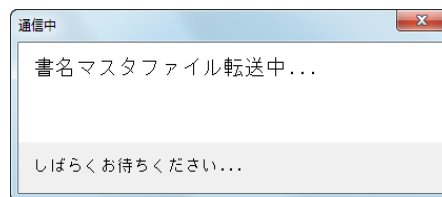
内部メモリ: SD カードに比べてスピーディに処理できます。

SD カード: 内部メモリに比べると処理が遅いですが、大量のデータを保存できます。

6. 条件を設定したら[転送]ボタンをクリックします。
7. 次のメッセージが表示されます。



8. パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。ハンディターミナルを置き台にセットします。ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。
[はい]ボタンをクリックします。
9. 蔵書データの取り込みが始まり、続いて、蔵書データが転送されます。



！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

10. 「転送が終了しました」と表示されたら、蔵書データがハンディターミナルに転送されました。
[OK]ボタンをクリックしてください。

3 照合点検モードの設定

蔵書点検のモードを照合点検モードに設定します。点検アシストで設定する方法と、ハンディターミナルで設定する方法があります。

！ご注意 照合点検を行うには、蔵書データがハンディターミナルに転送されている必要があります。
転送の操作は、「2 蔵書データの転送」(P.37)を参照してください。

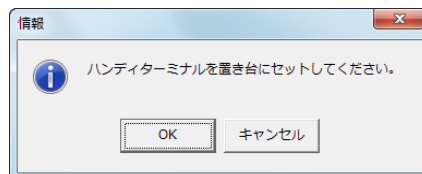
■点検アシストで設定する場合

操作

1. [点検アシスト]の[点検設定]ボタンをクリックします。

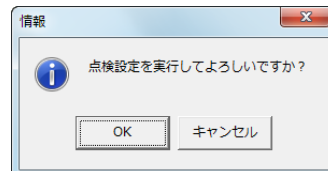


2. 点検アシストで、次のメッセージが表示されます。



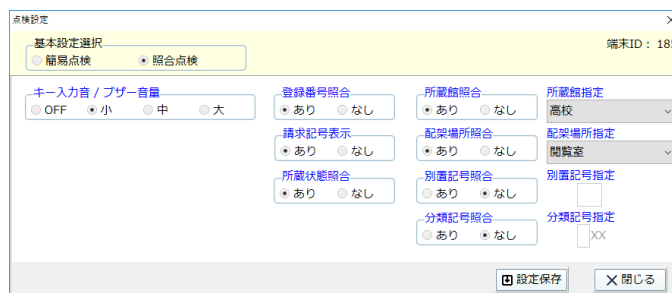
3. パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。ハンディターミナルを置き台にセットします。ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。
4. [OK] ボタンをクリックします。

点検設定の実行を確認するメッセージが表示されます。



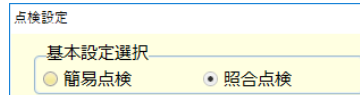
5. [OK] ボタンをクリックします。
点検アシストがハンディターミナルと通信し、[点検設定]ダイアログが表示されます。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。



操作

6. [基本設定選択]で[照合点検]を選択します。



7. 必要に応じて、[キー入力音/ブザー音量]を設定します。

・キー入力音/ブザー音量

ハンディターミナルのボタンを押したときの音量や、バーコード読み取りをしたときのブザーの音量を設定します。

[OFF]にすると音は鳴りません。

8. 照合する項目を設定します。

・登録番号照合

[あり]

読み取ったバーコードがLibMaxに登録されているかどうかチェックします。LibMaxに登録されていないバーコードを読み取ったときは、「ビー」という音がして「登録されていません」と表示されます。ただし、データ数は増え、点検データとして保存されます。

[なし]

読み取ったバーコードが、LibMaxに登録されているかどうかはチェックせず、すべて点検データとして保存します。

なお、[なし]を選択すると、請求記号表示や、所蔵館などの照合が行えなくなります。

※以降の項目はすべて、[登録番号照合]で[あり]を選択したときのみ、設定できます。

・請求記号表示

[あり]

資料バーコードの読み取り時に、ハンディターミナルの液晶画面に請求記号を表示します。

[なし]

請求記号を表示しません。

操作

・所蔵状態照合

[あり]

読み取ったバーコードの資料が所蔵以外の状態の場合、「ビー」という音がして「除籍」などと表示されますが、点検データとして保存します。

[なし]

所蔵状態をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

・所蔵館照合

[あり]

資料の所蔵館が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「所蔵館が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

[なし]

所蔵館をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[所蔵館指定]

[あり]を選択した場合、点検を行う所蔵館をリストから選択します。

・配架場所照合

[あり]

資料の配架場所が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「配架場所が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

[なし]

配架場所をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[配架場所指定]

[あり]を選択した場合、点検を行う配架場所をリストから選択します。

・別置記号照合

[あり]

資料の別置記号が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「別置記号が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

[なし]

別置記号をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[別置記号指定]

[あり]を選択した場合、点検を行う別置記号を入力します。

・分類記号照合

[あり]

資料の分類記号が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「分類記号が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

[なし]

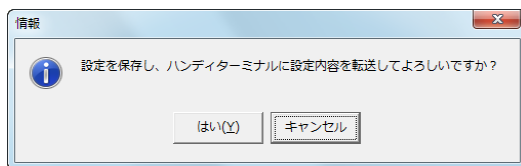
分類記号をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[分類記号指定]

[あり]を選択した場合、点検を行う分類記号を入力します。

操作

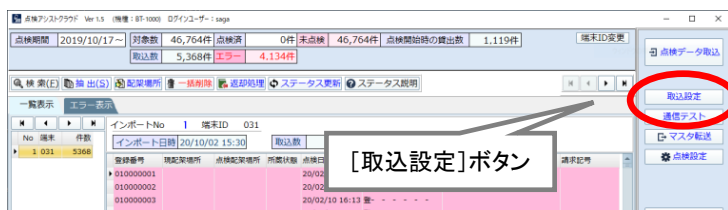
9. [設定保存]ボタンをクリックします。
次のメッセージが表示されます。



10. [はい]ボタンをクリックします。
点検設定ファイルがハンディターミナルに転送されます。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

11. 「設定ファイルを転送しました。」と表示されたら、設定は完了です。
[OK]ボタンをクリックしてください。
12. [点検設定]ダイアログの[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
13. (この先は LibMax クラウドをお使いのお客様のみ設定してください)
[点検アシスト]の[取込設定]ボタンをクリックします。



14. 条件指定用のダイアログに切り替わります。各項目を設定します。

取込設定

桁設定

始桁 1

桁数 8

取込分割件数

3000 件

保存 閉じる

・桁設定

LibMax の設定に合わせて[始桁]と[桁数]を入力して[保存]ボタンをクリックします。

・取込分割件数

初回設定は 3000 件で取込してください。
インターネットの回線速度によりデータ転送が失敗する場合は
2500 件以下で取込してください。

※LibMax の設定は[設定]メニュー[環境設定／ユーザー情報]の[番号体系]から確認できます。

環境設定

番号体系

始桁 1 桁数 8

保存 キャンセル

MEMO

●照合する項目を指定してください

[所蔵館照合]から[分類記号照合]までを[あり]に設定した場合は、必ず照合する項目を指定してください。項目を指定しなければ点検設定が行えません。

■ハンディターミナルで設定する場合

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源をONにします。
2. 液晶画面に[メインメニュー]画面が表示されます。
[メインメニュー]以外の画面が表示された場合は[L]ボタンを押してください。[メインメニュー]画面が表示されます。

メインメニュー
1: 蔵書点検
2: 貸出返却
3: 設定・削除

3. [3]ボタンを押します。
液晶画面に[設定・削除メニュー]画面が表示されます。

設定・削除メニュー
1: 蔵書点検設定
2: ハンディ設定
3: 削除処理

4. [1]ボタンを押します。
[点検設定メニュー]画面が表示されます。

点検設定メニュー
1: 点検モード設定
2: 詳細設定

5. [1]ボタンを押します。
[蔵書点検モード設定]画面が表示されます。

蔵書点検モード設定
0: 簡易点検モード
1: 照合点検モード
設定: 0

操作

6. [1]ボタンを押します。
「設定値が未指定の項目があります。設定してください。」と表示されるので、[ENT]ボタンを押します。[蔵書照合点検設定]画面が表示されます。

蔵書照合点検設定	
1 : 登録番号照合	ON
2 : 所蔵館照合	OFF
設定値 :	
3 : 配架場所照合	OFF
設定値 :	
4 : 別置記号照合	OFF
設定値 :	
5 : 分類記号照合	OFF
設定値 :	

7. 各項目を設定します。

・登録番号照合

- ① [蔵書照合点検設定]画面で[1]ボタンを押すと、[登録番号照合]画面が表示されます。

登録番号照合	
0 : OFF	1 : ON
設定 :	1

[0:OFF]

読み取ったバーコードが、LibMax に登録されているかどうかはチェックしません。すべて点検データとして保存します。

登録番号照合を OFF にすると、所蔵館や配架場所などの照合も行えなくなります。

[1:ON]

読み取ったバーコードが LibMax に登録されているかどうかチェックします。LibMax に登録されていないバーコードを読み取ったときは、「ビー」という音がして「登録されていません」と表示されますが、点検データとして保存します。

・所蔵館照合

- ① [蔵書照合点検設定]画面で[2]ボタンを押すと、[所蔵館照合]画面が表示されます。

所蔵館照合	
1 : 照合機能	
2 : 所蔵館選択	
3 : 所蔵館指定	

操作

- ② [1] ボタンを押すと、[所蔵館照合]画面が表示されます。

所蔵館照合	
0 : OFF	1 : ON
設定 :	0

[0: OFF]

所蔵館をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[1: ON]

資料の所蔵館が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「所蔵館が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

- ③ 数字ボタンを押して選択すると、[所蔵館照合]画面に戻ります。

- ④ 所蔵館照合を[ON]にしたときは、所蔵館の指定を行います。数字ボタンを押して、所蔵館の指定方法を選択します。

[2: 所蔵館選択]

[所蔵館選択]画面が表示されます。 ボタンで所蔵館を選択し、[ENT]ボタンを押します。

所蔵館選択
所蔵館コード :
-- 設定なし
10 : 本館
11 : 別館

※所蔵館の一覧は、LibMax で登録されているコードと所蔵館が表示されます。

[3: 所蔵館指定]

[所蔵館指定]画面が表示されます。数字ボタンで所蔵館コードを押し、[ENT]ボタンを押します。

所蔵館照合	
所蔵館コード :	10

- ⑤ [所蔵館照合]画面に戻ります。

[C]ボタンを押すと、[蔵書照合点検設定]画面に戻ります。

操作

・配架場所照合

- ① [蔵書照合点検設定]画面で[3]ボタンを押すと、[配架場所照合]画面が表示されます。

配架場所照合
1 : 照合機能
2 : 配架場所選択
3 : 配架場所指定

- ② [1]ボタンを押すと、[配架場所照合]画面が表示されます。

配架場所照合
0 : OFF 1 : ON
設定 : 0

[0: OFF]

配架場所をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[1: ON]

資料の配架場所が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「配架場所が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

- ③ 数字ボタンを押して選択すると、[配架場所照合]画面に戻ります。

- ④ 配架場所照合を[ON]にしたときは、配架場所の指定を行います。数字ボタンを押して、配架場所の指定方法を選択します。

[2: 配架場所選択]

[配架場所選択]画面が表示されます。 ボタンで配架場所を選択し、[ENT]ボタンを押します。

配架場所照合
配架場所コード :
-- 設定なし
10 : 開架
11 : 閉架

※配架場所の一覧は、LibMax で登録されているコードと配架場所が表示されます。

[3: 配架場所指定]

[配架場所指定]画面が表示されます。数字ボタンで配架場所コードを押し、[ENT]ボタンを押します。

配架場所照合
配架場所コード :

・別置記号照合

- ① [蔵書照合点検設定]画面で[4]ボタンを押すと、[別置記号照合]画面が表示されます。

別置記号照合
1: 照合機能
2: 別置記号指定

- ② [1]ボタンを押すと、[別置記号照合]画面が表示されます。

別置記号照合
0: OFF 1: ON
設定: 0

[0: OFF]

別置記号をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[1: ON]

読み取った資料バーコードの別置記号が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「別置記号が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

- ③ 数字ボタンを押して選択すると、[別置記号照合]画面に戻ります。

- ④ 別置記号照合を[ON]にしたときは、別置記号の指定を行います。

[2]ボタンを押します。

[別置記号指定]画面が表示されます。数字ボタンで別置記号を入力し、[ENT]ボタンを押します。

別置記号指定
記号設定:

- ⑤ [別置記号照合]画面に戻ります。

[C]ボタンを押すと、[蔵書照合点検設定]画面に戻ります。

操作

・分類記号照合

- ① [蔵書照合点検設定]画面で[5]ボタンを押すと、[分類記号照合]画面が表示されます。

分類記号照合	
1 : 照合機能	
2 : 分類記号指定	

- ② [1]ボタンを押すと、[分類記号照合]画面が表示されます。

分類記号照合	
0 : OFF	1 : ON
設定 :	0

[0: OFF]

分類記号をチェックせず、すべて点検データとして保存します。

[1: ON]

読み取った資料バーコードの分類記号が、LibMax のデータと一致しているかどうかをチェックします。一致しない場合、「ビー」という音がして「分類記号が違います」と表示されますが、点検データとして保存します。

- ③ 数字ボタンを押して選択すると、[分類記号照合]画面に戻ります。

- ④ 分類記号照合を[ON]にしたときは、分類記号の指定を行います。

[2]ボタンを押します。

[分類記号指定]画面が表示されます。数字ボタン押して分類記号を入力し、[ENT]ボタンを押します。

分類記号指定	
記号設定 :	■ xx

- ⑤ [分類記号照合]画面に戻ります。

[C]ボタンを押すと、[蔵書照合点検設定]画面に戻ります。

8. [蔵書照合点検設定]画面で[L]ボタンを押すと、[メインメニュー]画面に戻ります。

MEMO

●ハンディターミナルの時刻は通信したパソコンに合わせられます

[点検設定]でパソコンと通信を行うと、ハンディターミナルの時刻は通信したパソコンと同じになります。

4 ハンディターミナルでのバーコード読み取り作業

！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW] ボタンを押して電源を ON にします。
2. 液晶画面に[メインメニュー]画面が表示されます。
[メインメニュー]以外の画面が表示された場合は[L]ボタンを押してください。[メインメニュー]画面が表示されます。
3. [ENT]ボタンを押して、[蔵書点検]画面を表示します。
※[メインメニュー]以外の画面が表示されているときは、[F1]ボタンを押すと、[蔵書点検]画面が表示されます。
4. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、資料バーコードにあて、レーザ照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあけ、赤いレーザがバーコード部分にあたるようにします。
5. 蔵書点検を行う資料のバーコードを、すべて読み取ります。

バーコードの読み取りが完了したら、以降の操作は「7 バーコード読取以降の作業」(P.51)に進んでください。

MEMO

●[R]ボタンを押すと書名などが表示されます

ハンディターミナルの[R]ボタンを押すと、直前に資料バーコードを読み取った資料の書名が表示されます。また、読み取りエラーが起きたときは、エラーの理由が表示されます。

●途中で読み取り作業を中断するとき

途中で読み取り作業を中断するときは、そのままハンディターミナルの電源を OFF にします。読み取ったデータはハンディターミナルに保存されています。読み取り作業を再開する場合は、再び電源を ON にして、読み取り作業を開始します。ハンディターミナルは、登録番号が 10 桁の場合、1 台で 100 万冊以上のデータを保存することができます。

●読み取ったデータを削除するとき

重複して読み取り作業を行ったなど、なんらかの事情で読み取ったデータを削除したいときは、「読み取ったデータをハンディターミナルから削除する」(P.26)の手順で削除してください。なお、ハンディターミナルに保存されているすべてのデータが削除されますので、注意して実行してください。

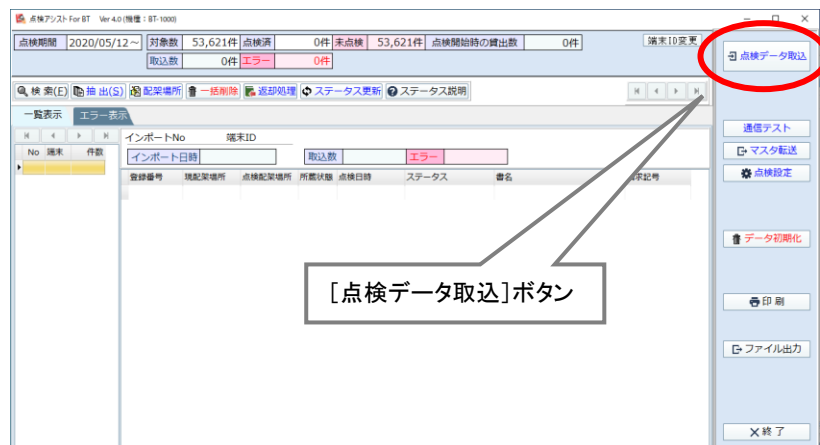
7 バーコード読み取り以降の作業

1 点検データの取り込み

バーコード読み取り以降の作業は、簡易点検モードと照合点検モードで共通です。
まず、ハンディターミナルで読み取った点検データを、点検アシストに取り込みます。点検データは、蔵書点検結果ファイルとしてサーバーに保存されます。

操作

1. パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。ハンディターミナルを置き台にセットします。ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。
2. パソコンで、点検アシストを起動します。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]→[点検アシスト ForBT]または[点検アシストクラウド]の順に選択します。
3. [点検データ取込]ボタンをクリックします。

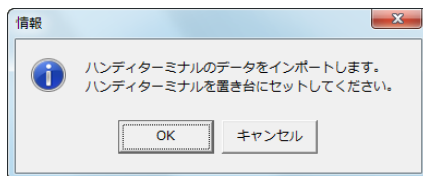


4. [点検データ取込]ダイアログが表示されます。

5. 点検データの桁数を確認します。
いずれも、LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
6. 点検データを取り込んだあとも、ハンディターミナルの蔵書点検データを残す場合は、[ハンディターミナルの蔵書点検データを削除しない]をチェックします。

操作

7. [実行]ボタンをクリックします。

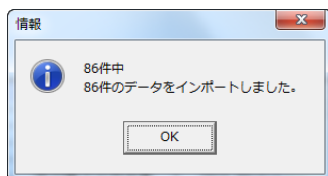


8. ハンディターミナルが置き台に正しくセットされているか、もう一度確認して、[OK]ボタンをクリックします。

読み込みが開始されます。

！ご注意 通信中は、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

9. 読み込みが正常に終了すると、下記のメッセージが表示されます。



※ 取り込んだデータの件数を確認してください。

10. [OK]ボタンをクリックします。

11. [点検アシスト]画面で、取り込まれた点検データを確認します。

タブ 件数表示

・件数表示(LibMax2012 以下をお使いのお客様)

[蔵書数]: LibMax に登録されている、除籍を除いた資料の数です。

[貸出中]: 現在貸し出しされている資料の数です。

[取込数]: 取り込まれたデータの総合計です。

[エラー]: LibMax にデータとして登録されていない数です。

操作

・件数表示(LibMax2013 をお使いのお客様)

[対象数]: 蔵書点検処理の対象になっている図書の数です。

[貸出中]: 現在貸し出しされている資料の数です。

[取込数]: 取り込まれたデータの総合計です。

[エラー]: LibMax にデータとして登録されていない数です。

・件数表示(LibMax2014 以上をお使いのお客様)

[点検期間]: LibMax で指定した点検期間が表示されます。

[対象数]: 蔵書点検処理の対象になっている図書の数です。

[点検済]: 点検データを取り込んだ図書の数と貸出中の数の合計です。

[未点検]: 点検対象のうち点検済になっていない図書の数です。

[点検開始時の貸出数]: LibMax で点検開始をしたときの貸出中の数です。

[取込数]: インポートされたデータの総合計です。

[エラー]: LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)数です。

・タブ

[一覧表示]: 点検データは、取込作業ごとに取り込まれます。取込作業ごとに点検データを確認するときは、[一覧表示]タブをクリックします。画面左側には、次のデータが表示されます。

- ・No 取込作業ごとの番号(インポート No)
- ・端末 ハンディターミナルの端末 ID
- ・件数 点検データの件数

画面左側で No をクリックして選択すると、画面右側に対応する点検データが表示されます。

[エラー表示]: 取り込んだ点検データのエラーデータのみ確認するときは、[エラー表示]タブをクリックします。

・点検データ

「現配架場所」には LibMax に登録されている配架場所が表示されます。

「点検配架場所」には、ハンディターミナルで点検作業を行った配架場所(配架場所を更新した場合は更新後の配架場所)が表示されます。

「ステータス」欄には、エラーの状況が次のとおり表示されます。

- ・登 LibMax に登録されていない登録番号
- ・配 配架場所が LibMax のデータと一致しない
- ・状 「除籍」または「不明」の資料
- ・別 別置記号が LibMax のデータと一致しない
- ・分 分類記号が LibMax のデータと一致しない
- ・館 所蔵館が LibMax のデータと一致しない
- ・貸 貸出中の資料

MEMO

●点検データを検索する

取り込んだ点検データを、登録番号で検索することができます。また、エラーレコードを指定して検索することも可能です。

(1) [検索]をクリックします。

[検索]ダイアログが表示されます。

(2) [検索項目]の設定を行います。

登録番号: 登録番号で点検データを検索します。[登録番号]入力欄に、検索する登録番号を入力してください。

エラーレコード: エラーが発生している点検データを検索します。

(3) [検索]ボタンをクリックします。

条件に該当するデータにカーソルが移動します。

MEMO

●点検データを抽出する

[一覧表示]タブの画面を表示しているときは、取り込んだ点検データを抽出することが可能です。

(1) [抽出]をクリックします。

点検アシスト For BT Ver 4.0 (機種: BT-1000)

点検期間	2019/07/26~	対象数	53,474件	点検済	3,579件	未点検	49,895件	点検開始時
取込数	45件	エラー	1件					

検索(E) 抽出(S) 配架場所 一括削除 返却処理 ステータス更新 ステータス説明

一覧表示 エラー表示

インポートNo 1 端末ID 185

インポート日時 20/05/22 11:54 取込数 45件 エラー

登録番号	現配架場所	点検配架場所	所蔵状態	点検日時	ステータス
0000044	閲覧室		所蔵	20/05/22 11:46	- - - - -
0000045	閲覧室		所蔵	20/05/22 11:46	- - - - -
0000046	閲覧室		所蔵	20/05/22 11:46	- - - - -

[抽出]ダイアログが表示されます。

抽出

登録番号 [] ~ []

インポートNo [] ~ []

端末ID [] ~ []

点検配架場所

- ☒ 空白
- ☒ 閲覧室
- ☒ 閉架

所蔵状態

- ☒ 空白
- ☒ 除籍
- ☒ 所蔵
- ☒ 発注中

抽出 閉じる

(2) 抽出の条件を設定します。

登録番号: 登録番号で点検データを抽出します。抽出する登録番号を入力してください。

インポートNo: インポートNoで点検データを抽出します。抽出する番号を入力してください。

端末ID: ハンディターミナルごとに点検データを抽出します。抽出するハンディターミナルの端末IDを入力してください。

点検時配架場所: 抽出する配架場所はチェックし、抽出しない配架場所はチェックを外します。

所蔵状態: 抽出する所蔵状態はチェックし、抽出しない所蔵状態はチェックを外します。

(3) [抽出]ボタンをクリックします。

条件に該当するデータのみが表示されます。

MEMO

●配架場所を一括して変更する

インポート No ごとに、一括して配架場所を変更することができます。

(1) [配架場所]をクリックします。



[配架場所一括変更]ダイアログが表示されます。

(2) [インポート No]に、配架場所を変更するインポート No を入力します。

[配架場所]のリストから、変更後の配架場所を選択します。

(3) [変更]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

(4) [はい]ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを変更しました。」と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

指定したインポート No の配架場所が変更されます。

なお、ここまでの操作では、LibMax の所蔵データの配架場所は変更されていません。LibMax の所蔵データの配架場所は、LibMax の蔵書点検処理で、点検データ取込を実行すると変更されます。

MEMO

●点検データに含まれている貸出中の資料を LibMax で返却処理するとき

(1) [返却処理]をクリックします。

[返却処理]ダイアログが表示されます。

(2) [インポート No]に、返却処理をする点検データのインポート No を入力します。

[返却日]に、返却処理を行う日付を入力します。

(3) [返却]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

(4) [はい]ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを返却しました。」と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

「ステータス」欄の「貸」の文字が消え、LibMax でも返却処理が実行されます。

MEMO**●点検データを一括して削除する**

指定したインポート No の点検データを、一括して削除することができます。元に戻すことはできないので、十分注意して実行してください。

- (1) [一括削除]をクリックします。

[一括削除]ダイアログが表示されます。

- (2) [インポート No]に、削除したい点検データのインポート No を入力します。

- (3) [削除]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

- (4) [はい]ボタンをクリックします。

- (5) 本当に削除してもよいか、再度確認して[はい]ボタンをクリックします。

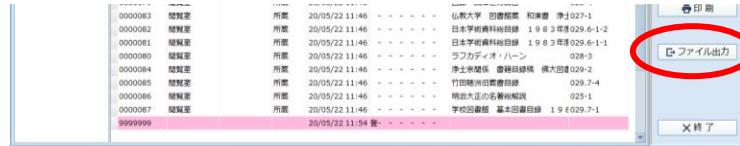
「〇〇件のデータを削除しました。」と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
取り込んだ点検データが一括で削除されます。

MEMO

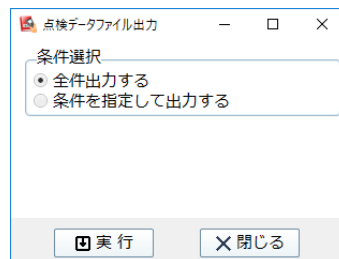
●点検データをファイルに出力する

点検データをテキストファイルに出力できます。LibMax の[所蔵データメンテナンス]ウィンドウで、取り込んで使用できます。

- (1) [ファイル出力]ボタンをクリックします。



[点検データファイル出力]ダイアログが表示されます。

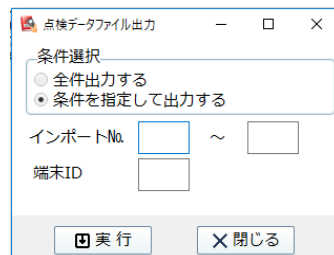


- (2) 条件を指定せず、すべての点検データを出力する場合は、[全件出力する]を選択します。

手順(4)へ進んでください。

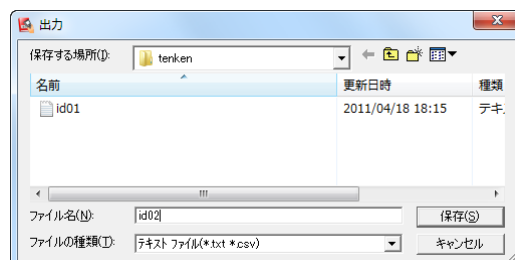
インポート No など条件を指定して、特定の点検データだけを出力する場合は、[条件を指定して出力する]を選択します。

- (3) 条件の入力欄が表示されます。ファイル出力したいインポート No や端末 ID を入力します。



- (4) [実行]ボタンをクリックします。

[出力]ダイアログが表示されます。



- (5) [保存する場所]でファイルを出力するフォルダを選択し、[ファイル名]に出力するファイル名を入力します。

- (6) [保存]ボタンをクリックします。

- (7) 「出力が完了しました。」と表示されたら、点検データがテキストファイルに出力されました。

[OK]ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、[点検データファイル出力]ダイアログの[閉じる]ボタンをクリックしてください。

MEMO

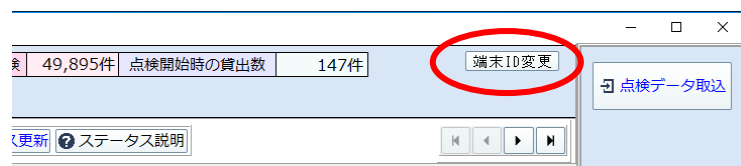
●端末 ID を変更する

ハンディターミナルの端末 ID は点検アシストで変更できます。他館から借用するなどして、ハンディターミナルの端末 ID が重複した場合は、次の手順で端末 ID を変更してください。

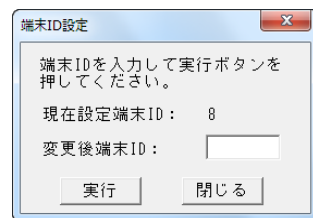
- (1) パソコンと置き台を、USB ケーブルで正しく接続します。置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。ハンディターミナルを置き台にセットします。ハンディターミナルの電源は切れていても構いません。

！ご注意 以降、「処理が終了しました。」というメッセージが表示されるまで、ハンディターミナルを置き台から外さないでください。

- (2) [端末 ID 変更] ボタンをクリックします。



[端末 ID 設定] ダイアログが表示され、置き台にセットしたハンディターミナルの、現在の端末 ID が表示されます。



- (3) [変更後端末 ID] に、新しい端末 ID を入力します。
- (4) [実行] ボタンをクリックします。
- (5) 「処理が終了しました。」と表示されたら、端末 ID が変更されました。
[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、[端末 ID 設定] ダイアログの [閉じる] ボタンをクリックしてください。

借用したハンディターミナルの端末 ID を変更した場合は、蔵書点検の終了後に端末 ID を元に戻してから、返却してください。

2 点検作業の再開

ひとつの配架場所の点検作業が終わり、ハンディターミナルのデータを点検アシストに取り込んだら、次の配架場所の点検作業を行います。必要に応じて[点検設定] (P.40) を変更し、「バーコード読み取り作業」→「点検データの取り込み」を繰り返して、すべての蔵書の点検作業を行います。

3 LibMax データのバックアップ

点検作業をすべて終わったら、次に LibMax で蔵書点検を実行します。

LibMax で蔵書点検を実行する前に、必ず LibMax データのバックアップを行ってください。

バックアップの手順は、LibMax のマニュアルをお読みください。

4 LibMax で蔵書点検を実行する

ハンディターミナルから取り込んだ点検データは、LibMax のサーバーに保存されています。

LibMax で蔵書点検を実行するときには、この点検データが読み込まれます。

蔵書点検について詳しくは、LibMax のマニュアルをお読みください。

8 付録

1 ハンディターミナル仕様

■KEYENCE BT-1000 の仕様

CPU		32bit RISC CPU
主記憶部	RAM 容量	16MB(内ユーザエリア 8MB)
	Flash ROM 容量	16MB(内ユーザエリア 10MB)
電源部	主電池	専用リチウムイオンバッテリーパック 連続使用時間:約 50 時間※1 サイクル寿命:約 500 回
	副電池	内蔵リチウム二次電池 バックアップ時間:約 1 時間
読み込み可能バーコード		JAN/EAN/UPC(アドオンコード対応)、CODE128、GS1-128(EAN-128)、CODE39、NW-7、CODE93、ITF、インダストリアル 2of5、COOP2of5、GS1-DataBar(RSS-14、RSS-14 Truncated、RSS-14 Stacked(Omnidirectional)、RSS Limited、RSS Expanded、RSS Expanded Stacked)
耐環境性	保護構造	IP54(JIS 防沫形)
	耐落下衝撃	2.0m(コンクリート上) プロテクタ(OP-84462)装着時:2.5m(コンクリート上)※2
	使用周囲温度	-20～+50℃(氷結しないこと) 充電時 0～+40℃
	使用周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
	保存周囲温度	-20～+60℃(氷結しないこと)
	保存周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
質量		標準充電電池パック装着時:約 190g

※1 動作確認 LED、バイブレーション機能 OFF、ブザー ON(音量小)、バックライト ON(低輝度)、標準動作速度、常温において、10 秒に 2 回バーコードを読み取った場合の連続使用時間です。

※2 試験値であり、保証値ではありません。

■KEYENCE BT-UC10U の仕様

端末接続インターフェース		RS-232C 準拠
外部 インターフェース	規格	USB2.0 Full Speed(仮想 COM)
	通信速度	230400/921600 bit/s
耐環境性	使用周囲温度	0～+40℃(氷結しないこと)
	使用周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
	保存周囲温度	-20～+60℃(氷結しないこと)
	保存周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
質量		約 305g
専用AC アダプタ仕様	入力側	AC100～240V 50/60Hz 41～55VA
	出力側	DC12V 最大 1.5A
	外形寸法	107×50×31mm(ケーブル部除く)
	質量	約 280g(ケーブル含む)

2 サポートのご案内

■お問い合わせ

電話・FAX・メールにて受付けております。

TEL: 011-669-6200 FAX: 011-669-3002 E-Mail: support@softteclib.co.jp

受付時間／10:00～12:00 13:00～17:00(土、日、祝祭日を除く)

曜日、時間帯により電話が繋がりにくい場合がございます。あらかじめご了承ください。

■ソフテック・ホームページ

ユーザーコーナーにて LibMax に関する情報確認の他、アップデートプログラムのダウンロードなどを行うことができます。ぜひご利用ください。

(ユーザーコーナーのご利用にはID、パスワードが必要です。お客様のID、パスワードはソフトウェア使用許諾契約書に記載されております。)

<https://libmax.com/>



〒063-0823 札幌市西区発寒3条6丁目10-25

発寒3・6ビル 3F